

ABTEC2012 参加報告書

修士1年 八木悠介

この度、私は8月29日(水)、30日(木)、31日(金)に、同志社大学 京田辺キャンパスにて開催された ABTEC2012 (2012 年度砥粒加工学会学術講演会) に発表者として参加しました。プレゼンテーションは31日午後の「先端加工」セッションにおいて”レーザ照射によるシリコン基板上への金ナノ粒子の転写と加工への応用”の題目で行いました。発表は15分、質疑応答は5分で行われました。

初日の29日から講演が始まり、この日は午前にも2つ、午後にも2つのセッションが4部屋で行われ、昼や午後のセッションの後に特別公演が行われました。

私は30日から現地に到着し、当日の午前には「機能表面の創成・処理技術」「超音波・振動援用加工」セッションを聴講しました。また、午後には階段教室にて National Taiwan University Prof. Wen-Cheng J. Wei,(韋文誠教授)氏による台湾磨粒加工学会 招待公演 “Abrasive Machining and Several Possible Polishing Techniques of Fine Ceramics for Femoral Head Applications”を聴講しました。



発表会場 (写真左は D 室, 右は特別公演が行われた KD201 室の様子)

同志社大学 京田辺キャンパス 恵道館

今学会は砥粒加工ということで“粒”を用いた様々な加工、処理技術が紹介されていました。また「新デバイスへの応用」セッションや私が発表させていただいた「先端加工」セッション等、従来の砥石加工という範疇を超えて幅広い分野の公演を聴くことができ、非常に興味を惹かれる内容の学会であったと感じます。

最終日である 31 日には私自身の発表がありました。前回、英語のポスターセッションに参加する経験があったのですが、今回、初めて登壇しての「公演」という形だったので、どういものになるのか不安を感じる一方、楽しみでもありました。本番、いざ登壇してみると自分の位置からスクリーンを確認しづらい、また、マイクを使うか否か等、細かいところで普段と違う状況に戸惑い、出だしでは多少緊張しました。途中からは普段のペースで、言いたいことを伝えることはできたように思います。質問は会場の皆さんの専門と異なるためかあまり出ませんでした。司会者であるパナソニック(株)の久保雅裕様からご質問、貴重なご意見を賜りました。ありがとうございました。



当研究室のポスター

会場の入り口すぐ横に掲示してありました



今回共に ABTEC に参加した先輩の鳥海さん(写真右: 修士 2 年)と私(写真左)

最終日にもいくつかのセッションを聴講し、京都市内も少し観光することができて、大変有意義な時間を過ごすことができました。今回の発表で見えてきた課題、他者の発表を見ることによって参考になる話し方やスライドの作り方等、自分の発表と照らし合わせてたくさんのことを学ぶことができたので、この学会で得たことを活かし、今後も努力していきたいと思います。

最後に今回発表準備において、様々なご指摘を下さった森田先生、比田井先生、松坂先生には大変お世話になりました。また、発表前に電話でアドバイスを下さった、今回の研究の前任者であり、研究室の先輩の毛塚さん((株)リコー)には特にお世話になりました。重ねて御礼申し上げます。